

Society of Toxicology(SOT)学術年会派遣報告

ーContinuing Education Course に参加してー

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 三ヶ島史人

2025 年度の第 64 回 SOT 学術学会はフロリダ州オーランドにて 3/16-20 にかけて開催されました。今回、日本毒性学会学術教育委員会が企画する SOT 教育コース派遣事業の一環として、指定セミナー”Key Considerations of NAM Development for Global Regulatory Harmonization”、自由セミナー”Utilizing New Approach Methodologies (NAMs) for Regulatory Assessment of Developmental Neurotoxicity: Progress and Prospects”に参加いたしました。

指定セミナーは新規評価手法（New approach methodologies: NAMs）の行政利用の国際協調に関するものでした。OECD ガイドライン 34 の内容に沿った試験系のバリデーションに関する内容が中心で、試験系開発における重要な考慮事項の解説や、OECD ガイドライン化プロセスの紹介がなされました。行政利用を見据えた NAMs の試験系開発過程に着目した講演は貴重であり、行政当局に所属する者として有意義な情報収集ができました。行政受け入れ可否判断の国際協調については一当局のみで解決できるものではなく、改めて大きな課題であると感じさせられました。自由セミナーは発達神経毒性を評価する具体的な NAMs の試験系に関するもので、指定セミナーと合わせて NAMs に関する理解を深めることができました。学会全体を通して NAMs に関する議論がメイントピックとなっており、今後動物を用いない NAMs による毒性評価が増えてくると改めて実感させられました。

オーランドはウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートやユニバーサル・オーランド・リゾートなどの複数のテーマパークがある世界有数の観光・保養都市として知られ、多くの観光客で賑わう街でした。会場となった Orange County Convention Center West Concourse はとても広く、会場内の移動にそれなりの時間を要するほどでした。250 社を超える企業展示や 2000 件以上のポスター発表の会場となった ToxExpo は活気があふれていました。残念なことに、2025 年 1 月の米国大統領令の影響により、US FDA や US EPA、NIHS などの米国行政機関の職員が本学会に現地参加できない状況となりました。それでも予定されていたこれらの職員の講演は録画映像での対応となり、後日多くの講演内容が学会専用アプリで配信されることでこれらの職員も他の講演を聴講できるようになるなど、数年前のハイブリッド開催の経験から発展したテクノロジーを活かしたフォローがなされました。

今回このような貴重な機会をくださいました、日本毒性学会教育委員会の諸先生方、事務局の皆さまに改めてお礼申し上げます。

